

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年10月31日
【四半期会計期間】	第28期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	ゲンダイエージェンシー株式会社
【英訳名】	G E N D A I A G E N C Y I N C .
【代表者の役職氏名】	代表取締役 最高経営責任者 山本 正卓
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
【電話番号】	03（5308）9888（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 最高財務責任者 高 秀一
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
【電話番号】	03（5308）9888（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 最高財務責任者 高 秀一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第2四半期 連結累計期間	第28期 第2四半期 連結累計期間	第27期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	3,536	3,805	7,426
経常利益 (百万円)	85	251	313
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	36	202	247
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	38	202	248
純資産額 (百万円)	4,652	4,526	4,476
総資産額 (百万円)	6,018	5,845	6,254
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	2.42	14.89	16.90
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.3	77.4	71.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	146	164	359
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	12	32	224
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	295	545	419
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	3,642	3,586	3,978

回次	第27期 第2四半期 連結会計期間	第28期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.97	7.71

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績（以下、経営成績等という。）の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症による悪化影響が緩和されたものの、急激な円安の進行や世界的な原材料価格の高騰など、未だ厳しい状況は続いております。

当社グループの主要顧客であるパチンコホール業界においては、新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限が緩和され、来店者数は回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の水準には至らず、収益面で厳しい状況は続いております。さらには、今後導入が見込まれる新基準機等への投資が控えていることもあり、店舗リニューアルや新遊技機の購入といった投資意欲は減退しています。その一方で、パチンコホール以外の広告分野において、現在力を入れているフィットネス施設等においては、前年と比較し、広告需要は回復基調にあります。

こうした環境下で、当社グループでは主力の広告事業において、パチンコホール以外の顧客開拓、取引深耕を推進し、収益の底上げに向けた取り組みを進めてまいりました。また、引き続き販管費等の抑制に努めました。

これらの取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,805百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は223百万円（同192.6%増）、経常利益は251百万円（同194.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は202百万円（同460.5%増）となりました。

広告事業

当第2四半期連結累計期間におけるパチンコホール広告市場は、5月の大型連休や8月のお盆休みに向けた広告需要は高まったものの、その他においては、パチンコホールの収益性の低迷や投資意欲の減退による広告費の削減に加え、新台入替の頻度が減少したことによる告知需要の減少もあり、広告需要は低迷する状況にありました。特に取扱高は大きいものの利益率の低い紙媒体は、コロナ禍以前と比較して大幅に減少し、インターネット広告へのシフトがより鮮明となりました。パチンコホール広告以外の分の広告市場においては、フィットネス施設広告需要や、連結子会社㈱キューアンドキューにおいて開拓を進めている住宅関連分野における広告需要は、堅調に推移しました。

こうした環境下において、当社グループでは、パチンコホール施設、フィットネス施設以外の市場開拓をより積極的に推進いたしました。

その結果、売上高は、主として紙媒体広告の需要減少により3,773百万円（前年同期比7.8%増）に留まったものの、利益率の高いインターネット広告が堅調に推移したことにより、セグメント利益は336百万円（同67.5%増）となりました。

不動産事業

当第2四半期連結累計期間においては、連結子会社㈱ランドサポートが所有する千葉県柏市の土地の賃貸収益は計画通りでしたが、この期間、賃貸仲介物件の引き渡し等に伴う手数料の計上はありませんでした。

その結果、売上高は25百万円（前年同期比17.7%減）、セグメント利益は10百万円（同34.2%減）となりました。

その他

当第2四半期連結累計期間においては、キャンピングカーレンタル事業等による、売上高は6百万円（前年同期比6.3%増）、セグメント利益は1百万円（同502.8%増）となりました。

財政状態の状況

資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は5,845百万円となり、前連結会計年度末比408百万円の減少となりました。これは、主に借入金の返済等により現金及び預金が391百万円減少したこと等によるものであります。

負債

負債合計は1,319百万円となり、前連結会計年度末比458百万円の減少となりました。これは、主に借入金が393百万円減少したこと等によるものであります。

純資産

純資産合計は4,526百万円となり、前連結会計年度末比50百万円の増加となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益202百万円を計上する一方で、株主還元として利益配当54百万円及び自己株式取得97百万円を実施したこと等によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

生産実績

該当事項はありません。

受注実績

当社グループの商品・サービスは、受注から納品までの期間がきわめて短いため、記載を省略しております。

販売実績

当第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

報告セグメント	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	前年同期比(%)
広告事業		
折込広告 (百万円)	1,432	107.3
インターネット (百万円)	1,244	120.2
販促物 (百万円)	479	92.6
クリエイティブ (百万円)	237	106.1
媒体 (百万円)	110	89.5
その他 (百万円)	269	101.8
広告事業計 (百万円)	3,773	107.8
不動産事業 (百万円)	25	82.3
その他 (百万円)	6	106.3
合計 (百万円)	3,805	107.6

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、主として税金等調整前四半期純利益251百万円を計上したこと等により164百万円の収入（前年同期は146百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主として固定資産取得による支出31百万円があったこと等により32百万円の支出（前年同期は12百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主として借入金の返済による支出が393百万円、自己株式の取得による支出が97百万円、前連結会計年度決算に係る期末配当金の支払54百万円があったことにより545百万円の支出（前年同期は295百万円の支出）となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物は当第2四半期連結累計期間において391百万円減少し、3,586百万円となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	66,400,000
計	66,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2022年10月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,700,000	13,700,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	13,700,000	13,700,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年9月30日 (注)	1,350,000	13,700,000	-	100	-	100

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
GAキャピタル株式会社	東京都渋谷区西原2-26-3	5,244,000	39.08
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	東京都千代田区丸の内2-7-1	740,900	5.52
ジャパンプリント株式会社	東京都羽村市神明台4-9-12	411,200	3.06
梅田美智子	京都府京丹後市	359,400	2.68
内藤征吾	東京都中央区	323,000	2.41
山本正卓	東京都渋谷区	322,400	2.40
完山敏錫	愛知県名古屋市千種区	320,000	2.38
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	東京都港区港南2-15-1	209,200	1.56
岡秀朋	三重県津市	157,700	1.18
光岡巖	東京都小平市	157,000	1.17
計	-	8,244,800	61.44

(注) 1. 上記大株主の状況欄には、当社が所有する自己株式を除いております。当社は自己株式を281,200株所有しており、発行済株式総数に対する割合は2.05%であります。

2. FMR LLCから、2022年7月22日付で関東財務局に提出された大量保有報告書(変更報告書)により、2022年7月15日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含んでおりません。

なお、変更報告書の内容は以下のとおりであります。

大量保有者	FMR LLC
住所	245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA
保有株券等の数	1,120,900株
株券等保有割合	7.45%

(6) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 281,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,413,800	134,138	-
単元未満株式	普通株式 5,000	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,700,000	-	-
総株主の議決権	-	134,138	-

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
ゲンダイエージェ ンシー株式会社	東京都新宿区西新 宿三丁目20番2号	281,200	-	281,200	2.05
計	-	281,200	-	281,200	2.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,984	3,592
受取手形、売掛金及び契約資産	1,048	983
未収還付法人税等	5	40
その他	70	66
貸倒引当金	1	0
流動資産合計	5,107	4,683
固定資産		
有形固定資産		
土地	521	521
その他(純額)	62	72
有形固定資産合計	583	594
無形固定資産		
のれん	48	42
その他	62	77
無形固定資産合計	111	120
投資その他の資産	451	448
固定資産合計	1,146	1,162
資産合計	6,254	5,845
負債の部		
流動負債		
買掛金	568	522
短期借入金	200	-
1年内返済予定の長期借入金	287	187
未払法人税等	54	48
その他	179	166
流動負債合計	1,289	924
固定負債		
長期借入金	450	356
資産除去債務	8	8
その他	29	29
固定負債合計	488	394
負債合計	1,777	1,319
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	1,713	1,261
利益剰余金	3,111	3,259
自己株式	449	94
株主資本合計	4,475	4,525
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	1
その他の包括利益累計額合計	1	1
純資産合計	4,476	4,526
負債純資産合計	6,254	5,845

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	3,536	3,805
売上原価	2,533	2,653
売上総利益	1,003	1,151
販売費及び一般管理費	927	928
営業利益	76	223
営業外収益		
受取利息	0	0
有価証券利息	1	0
受取配当金	6	2
為替差益	1	22
その他	3	5
営業外収益合計	12	31
営業外費用		
支払利息	1	1
その他	1	1
営業外費用合計	3	3
経常利益	85	251
特別損失		
投資有価証券評価損	4	-
特別損失合計	4	-
税金等調整前四半期純利益	80	251
法人税、住民税及び事業税	46	47
法人税等調整額	1	1
法人税等合計	44	48
四半期純利益	36	202
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	36	202

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	36	202
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	0
その他の包括利益合計	2	0
四半期包括利益	38	202
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38	202
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	80	251
減価償却費	22	19
のれん償却額	6	6
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	1
受取利息及び受取配当金	7	2
支払利息	1	1
為替差損益(は益)	1	22
投資有価証券評価損益(は益)	4	-
売上債権の増減額(は増加)	97	64
棚卸資産の増減額(は増加)	4	1
仕入債務の増減額(は減少)	53	45
その他	2	11
小計	157	259
利息及び配当金の受取額	9	2
利息の支払額	1	1
法人税等の支払額	33	96
法人税等の還付額	14	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	146	164
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	9	7
有形固定資産の売却による収入	0	-
無形固定資産の取得による支出	12	24
投資有価証券の取得による支出	6	0
敷金及び保証金の差入による支出	-	0
敷金及び保証金の回収による収入	5	-
その他	9	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	12	32
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	200
長期借入金の返済による支出	187	193
自己株式の取得による支出	108	97
配当金の支払額	-	54
財務活動によるキャッシュ・フロー	295	545
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	22
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	160	391
現金及び現金同等物の期首残高	3,802	3,978
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,642	3,586

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(自己株式の取得)

当社は、2022年6月17日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による当社定款の定めに基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

1. 自己株式取得を行う理由

資本効率の改善が、株主価値の増大に寄与すると判断したため、自己株式を取得するものであります。

2. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得対象株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得し得る株式の総数 900,000株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合6.57%)
- (3) 株式の取得価額の総額 350,000,000円(上限)
- (4) 取得期間 2022年6月20日から2023年3月24日まで

上記取締役会決議に基づき、次のとおり自己株式の取得を実施いたしました。

- (1) 取得した株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得した株式の総数 280,900株
- (3) 株式の取得価額の総額 97,365,400円
- (4) 取得期間 2022年6月20日から2022年9月30日まで
- (5) 取得方法 東京証券取引所における市場買付

(四半期連結貸借対照表関係)

資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
投資その他の資産	2百万円	2百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
従業員給与手当	442百万円	437百万円
福利厚生費	77百万円	76百万円
旅費交通費	22百万円	28百万円
地代家賃	75百万円	74百万円
減価償却費	18百万円	15百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
現金及び預金勘定	3,648百万円	3,592百万円
担保に供している定期預金	6百万円	6百万円
現金及び現金同等物	3,642百万円	3,586百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月15日 取締役会	普通株式	44	3	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年7月16日開催の取締役会決議に基づき、自己株式321,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が108百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が108百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年4月15日 取締役会	普通株式	54	4	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月14日 取締役会	普通株式	93	7	2022年9月30日	2022年12月5日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

(1) 自己株式の取得

当社は、2022年6月17日開催の取締役会決議に基づき、自己株式280,900株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が97百万円増加しております。

(2) 自己株式の消却

当社は、2022年9月16日開催の取締役会決議に基づき、2022年9月30日付で、自己株式1,350,000株の消却を実施いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金及び自己株式がそれぞれ452百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	広告事業	不動産事業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	3,499	30	3,530	6	3,536	-	3,536
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	3,499	30	3,530	6	3,536	-	3,536
セグメント利益	200	15	216	0	216	140	76

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業のセグメントであり、ストレージ事業及びキャンピングカーレンタル事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 140百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 140百万円であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	広告事業	不動産事業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	3,773	25	3,798	6	3,805	-	3,805
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	3,773	25	3,798	6	3,805	-	3,805
セグメント利益	336	10	346	1	347	124	223

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業のセグメントであり、ストレージ事業及びキャンピングカーレンタル事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 124百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 124百万円であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	広告事業	不動産事業	計		
折込広告	1,334	-	1,334	-	1,334
インターネット	1,035	-	1,035	-	1,035
販促物	518	-	518	-	518
クリエイティブ	223	-	223	-	223
媒体	122	-	122	-	122
その他の広告	264	-	264	-	264
不動産	-	30	30	-	30
その他	-	-	-	6	6
顧客との契約から生じる収益	3,499	30	3,530	6	3,536
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,499	30	3,530	6	3,536

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業のセグメントであり、ストレージ事業及びキャンピングカーレンタル事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	広告事業	不動産事業	計		
折込広告	1,432	-	1,432	-	1,432
インターネット	1,244	-	1,244	-	1,244
販促物	479	-	479	-	479
クリエイティブ	237	-	237	-	237
媒体	110	-	110	-	110
その他の広告	269	-	269	-	269
不動産	-	25	25	-	25
その他	-	-	-	6	6
顧客との契約から生じる収益	3,773	25	3,798	6	3,805
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,773	25	3,798	6	3,805

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業のセグメントであり、ストレージ事業及びキャンピングカーレンタル事業等を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円42銭	14円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	36	202
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	36	202
普通株式の期中平均株式数(株)	14,954,138	13,612,200

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2022年10月14日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....93百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....7円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年12月5日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年10月31日

ゲンダイエージェンシー株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三澤幸之助

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋藤映

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているゲンダイエージェンシー株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ゲンダイエージェンシー株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析のその他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。